



表紙写真/慶佐次のマングローブ

CONTENTS

ご覧になれます。

- 1 **くがにくとつば**[黄金言葉] vol.139
“ありがとう”がたくさん貰える仕事
株式会社アイセック・ジャパン 代表取締役社長 一瀬 宗也
- 4 **おきぎんマーケティングレポート**
第61回おきぎん企業動向調査
(2015年7～9月期)調査結果
～県内(地域・業種別)の経営環境と業況感(2015年10～12月期見通し)～
- 12 **地域リレーションシップ情報**⑩
沖縄総合事務局経済産業部の最近の取組について
10月は『3R推進月間』です
- 14 **けいざい風水**
- 16 **最近の県内経済の動向**
2015年7月の県内景況
- 18 **国内景気動向**
- 20 **沖縄マーケティング情報**
 - ①沖縄県内の事業所数・従業者数・人口・世帯数
 - ②世界の中の沖縄(年次)
 - ③グラフでみる沖縄経済
 - ④数値でみる沖縄県・全国の経済動向(月次)
- 40 **経済社会のできごと**(沖縄、国内・海外)
2015年8月
- 42 **各種セミナー等開催インフォメーション**
- 44 **おきぎん調査レポート・バックナンバー**(分野別)
- 48 **ゆがふ編集後記**

おきぎんカトレアクラブ会員の皆様へは「おきぎん調査月報」をインターネットでも公表しております。

<https://cattleya.okinawa-bank.co.jp/index.jsp>

※「おきぎん店舗一覧」につきましては、沖縄銀行ホームページをご参照下さい。

“ありがとう”がたくさん貰える仕事



株式会社アイセック・ジャパン

代表取締役社長 一瀬 宗也

今回は、「世界最高の音声認識エンジン」で正確、迅速な字幕配信を行い、聴覚障がい者向けサービスから、講演会、国際会議、テレビへと活用の幅を広げている、株式会社アイセック・ジャパンの一瀬 宗也社長にお話を伺って参りました。

Q：どのようなサービスを提供しているのですか

インターネットを使用してリアルタイムで文字情報を届けるサービスを主な事業としています。

“聞こえ”の問題は社会全体で取り組むべき重要なテーマであります。障がい者手帳を持つ聴覚障がい者は全国で324万人、そのうち81.5%は手話が使えません。また、聴覚障がいに加えて、高齢による難聴等で“聞こえ”に何らかの問題がある方は全国で1,384万人もおり、そのうち、手話が使えない方は99.6%にも上るそうです。

そうした“聞こえ”に問題をお持ちの方に、スマートフォン等のインターネットを通じて、話し手の音声を遠隔地にいる通訳者に送信し、その内容を文字入力し、インターネットで手元のタブレット端末やスマートフォン、パソコン等にほぼリアルタイムで字幕を配信、表示するサービスを提供しています。

このサービスを使えば、“聞こえ”に問題のある方でも、電話での会話やセミナー、講演会等でのコミュニケーションがスムーズにできるようになります。



▲モバイル型情報保障サービス(e-ミミ)の仕組み

Q：「世界最高の音声認識エンジン」とは、どのような仕組みになっているのですか

驚くかもしれませんが、「世界最高の音声認識エンジン」とは、特にデジタルな最先端技術が使われているわけではなく、敢えてアナログな「人力」です。スマートフォンに向かって話したことを、弊社のセンターでスタッフが聴いて、それをリアルタイムで打ち出していくというシステムです。基本的には2人のペアが速記タイプを行って、誤変換等のチェック・修正を行う者が1人付いて行きます。



▲e-ミミセンターうるま

音声認識ソフトを利用するのではなく、人の手で音声を入力変換する点に大きな特徴があります。話し言葉を会話のスピードに合わせて、正確に変換するには、人の手でなければまだまだ無理です。音声認識の技術も進んでおり、日常会話等の簡単なやりとりはカバーできますが、セミナーや講演会等の規模になると、カバーできません。正確性の問題もあり、人の手が欠かせません。

Q：どの位のスピードで入力できるのですか

話し言葉は一般的に、かな漢字混じりで1分間に250文字位のスピードですが、弊社の鍛錬した

オペレーターでも200文字を入力するのがぎりぎりです。一般的には、1分間で100文字を入力出来ればとても速い部類です。

そこで、ペアで餅をつくようなリズムで交互にタイプすると、1分間で最大466文字まで入力できるようになります。これが、日本で一番正確、迅速な、「世界最高の音声認識エンジン」の正体です。

弊社では毎月、入力スキル測定を欠かさず行っており、個々のスキルを明確化することにより、休み等でペアが変わっても、常時、ペアの組み合わせが可能な状態にしています。

総務省は2017年度までに、地上波、BS、CSに限らず、全てのテレビ番組への字幕付与の実施を目指しています。現在、ニュース等でリアルタイムの字幕を観ることはできますが、リアルタイムの字幕配信サービスを提供できる業者は、国内では、ほんの数社しかありません。それも、特別なキーボードを用いて、1分間に350文字迄は入力できますが、弊社のように、400文字を超える業者はありません。

Q：国際会議で使われたそうですが

今年、3月14日から18日に、仙台市で国連防災世界会議が開催され、弊社の「モバイル型情報保障サービス (e-ミミ)」を使って、音声をリアルタイムで字幕化し、全ての参加者が情報を得られる国際会議づくりのお手伝いをしました。

米国では法律によって国際会議などの情報保障が進んでおり、会議でも字幕をつけるのは一般的ですが、日本では、まだまだ対応が遅れており、国連防災世界会議の開催期間の5日間、字幕を供給できる業者がなく、弊社で対応させていただきました。



▲国連防災世界会議での字幕配信

但し、英語字幕は米国本土の業者に委託したため時差があり、コスト増やオペレーターの若干の質の低下がありました。そこで、時差が13時間か

ら1時間に短縮できるフィリピンに、現在、現地法人を起こす準備をしています。フィリピンでは英語は公用語として日常生活の中で使われており、近年では、オンライン英会話をサービスとする多くの日本の企業が、高品質な英語と低コストを求めて進出しています。

弊社の「モバイル型情報保障サービス (e-ミミ)」を利用して頂ければ、音声取得用と、文字表示用のスマートフォン等の通信機器のみで、特別な機材は必要なく字幕対応ができ、また、リアルタイムで変換した文字データを利用して短時間で会議録も作成できます。

その他に、字幕を表示することで、聴覚に障がない方にも大きなメリットがあります。遡って聞き逃した部分を補足できたり、スピーチの内容を文字でも認識できることで、理解度がぐっと増します。

沖縄県でもMICEの誘致を進めていますが、是非、国際会議等で活用していただけたらと思います。

Q：どのような会社を目指していますか

私は日本アイ・ビー・エムに30年間勤務し、コールセンター事業の立ち上げ等に携わったのを機に沖縄に参りました。

沖縄のショッピングセンターに行くと、若い親子連れがたくさんいる光景は地方の内地では見られない光景で驚かされました。若い人が多いのにも関わらず、観光産業以外は働くところが少なく、失業率も依然として高い状態で、私自身もコールセンターにいて仕事を創出していたのですが、離職率が高い点も気になっていました。

そこで、私には、沖縄のために何かできないかと常に思っていることがあります。それは、メンタルに優しい会社による雇用の創出です。

弊社の仕事は、やればやるほど、聴覚障がい者や高齢者の方々から“ありがとう”が貰え、且つ努力してスキルが上がれば、益々、“ありがとう”がたくさん貰える仕事です。

弊社の社員は70名おり、うち、約半分が20代と若く、社員のみなさまには、高いモチベーションとやりがいを持って、仕事に励んでもらっています。

リアルタイム文字通訳サービス

mimi の活用事例



行政・議会や社内会議、議事録早期発行での活用

行政・議会を公聴する権利は障がい者や高齢者も等しく有するものでありながら、聞こえない、手話が分からない方々が傍聴し審議内容を理解するためのハードルは依然高いままです。この問題をリアルタイム文字通訳サービス「e-ミミ」が解決します。ご利用中の佐賀県武雄市からも高い評価をいただいております。



教育機関での活用

多様な教育・学習プログラムの中でも重要性が高く臨場感の欠かせない授業や講義、体験学習などにおいてリアルタイム文字通訳サービス「e-ミミ」は注目されています。先生や教授の言葉を文字情報でも認識することでより深く理解することができます。



講演会・セミナー・シンポジウムでの活用

公共益に資するテーマを扱う講演会・セミナー・シンポジウムでは、主催者や会場の姿勢としてアクセシビリティに対する高い意識が求められます。リアルタイム文字通訳サービス「e-ミミ」は実用性やコスト面からも最も適したソリューションで、国連防災世界会議でも使われました。



ウエディングや各種セレモニーでの活用

大切な方のウエディングや様々なセレモニーなどの式典は思い入れも一段と強まるもの。そんな時「聞こえ」に障がいがあれば、人生において数少ない大切な機会です。分かつ合う事が困難です。「装備不要」の利点も大いに発揮されます。



観光・旅行シーンでの活用

旅慣れたシニア層の旅行ニーズは旅の目的をより明確により深く設定しています。観光情報への関心に対するフォローとともに、聴覚障がい者に配慮したバリアフリー対応は新たな旅行需要を生み出す大きなビジネスチャンスとなります。

「e-ミミ」主なご利用実績

<議会・講演会>

- ・佐賀県武雄市議会
- ・国連防災世界会議
- ・障害者問題全国交流会
- ・人権啓発研究集会
- ・日本聴覚医学会
- ・日本心理学会

<受賞・採択など>

- ・プライバシーマーク取得 (2012年 4月)
- ・沖縄銀行 (2012年 7月)
「おきぎんふるさと振興基金」に採択
- ・日経ビジネス (2012年 10月)
「日本を救う次世代ベンチャー100」に採択
- ・佐賀県武雄市 (2013年 6月)
日本初の議会ライブ字幕配信開始
- ・中小企業庁 (2013年 7月)
中小企業技術革新挑戦支援事業
- ・沖縄県福祉のまちづくり賞 (2013年 12月)
奨励賞受賞
- ・厚生労働省 (2014年 7月)
障害者自立支援機器等開発促進事業
- ・独立行政法人 (2012年/2013年/2014年 6月)
情報通信研究機構
チャレンジド向け通信・放送役務提供・
開発助成金事業

会 社 名 株式会社アイセック・ジャパン
本 社 〒904-2203
沖縄県うるま市字川崎468番地
いちゅい具志川じんぶん館1F
電話：098-972-6888
FAX：098-987-5627

ホームページ
アドレス <http://iscecj.co.jp/>
メールアドレス iscec-j@iscecj.co.jp
設立年月日 2008年9月1日
役員構成 代表取締役 一瀬 宗也 (いちせ むねや)
資 本 金 3,240万円
主 要 事 業 リアルタイム文字通訳サービス(e-ミミ)
IT委託研修訓練
インターネットショップ「美ら国」運営
お問い合わせ先 098-923-2893

けいざい 風水

✦ ABL融資(動産担保)の推奨 企業の在庫や債権活用

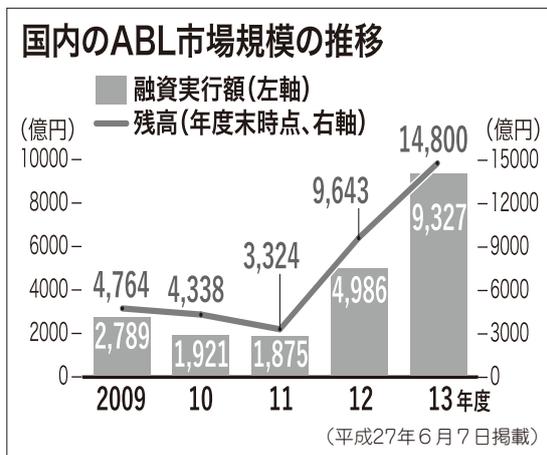
事業者の皆さん「ABL」をご存知でしょうか？ ABL（エービーエル＝アセット・ベスト・レンディングの略称）とは、企業が有する在庫や売掛債権を活用する新たな融資形態です。ABLは金融機関が不動産担保や個人保証に依存することなく、金融機関と企業がお互いの信頼関係に基づいて密接なコミュニケーションを取りながら、企業が保有する原材料や商品、売掛金などを担保として金融機関に提供して行われる融資手法として、ここ数年注目されています。

企業のメリットとしては、不動産を保有しない中小企業などにも融資を受けられる可能性が広がり、金融機関が企業の事業内容をより深く理解できるようになればタイムリーな資金供給が可能となります。また、金融機関のメリットとしては、在庫・売掛金などの精査を行い、企業の経営状況を適時適切に把握することができるほか、従来以上に企業の商流や事業の特性に対する理解がすすみ、結果として企業の事業価値を見極めて融資することができます。

一般的に動産担保の適正は、処分性、換価価値、担保管理の難易などを分析して評価しています。県内の最近の事例として、地中に埋まる不発弾を発見する磁気探査機や牧場内で飼育する乳牛、田芋、大型クレーン、クルマエビなどさまざまな案件が組成されています。

この機会に自社が保有する在庫などを精査し、取引金融機関に相談されてみてはいかがでしょうか。

(沖縄銀行 牧港支店長 比嘉 智)



✦ 住みやすい街・小禄 県外移住者にも人気

小禄（沖縄方言でウルク）は那覇市の最南端に位置し、市内を横断する国場川が流れ、在日米軍基地である那覇港湾施設（那覇軍港）を有しています。

沖縄県の空の玄関口である那覇空港や沖縄都市モノレール線、本島内各会社の路線バス、高速バスが通っているほか、空港周辺にはレンタカー会社が軒を連ねるなど、沖縄本島の交通の要所であります。

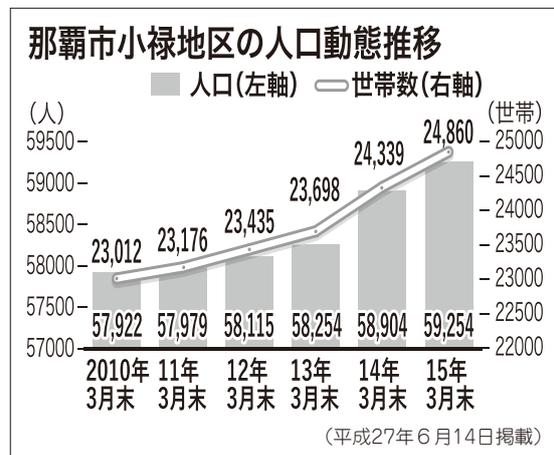
中西部の金城（かなぐすく）地区は米軍基地施設の跡地利用により大型ショッピングセンターが建設されたことから、飲食店、商業施設、住宅街などが整備されました。

また、南東部の宇栄原地区は大規模な団地の建て替えが進んでいることなどから、生活環境の利便性が向上しており、県外からの移住者の転居地としても人気のある地域となっています。

那覇市人口動態表によると、2015年3月末の那覇市小禄地区の人口は5万9,254人、世帯数が2万4,860世帯となっており、5年前と比べてみると、人口が2.3%（1,332人）、世帯数が8.0%（1,848世帯）増加し、堅調に推移していることがうかがえます。

緑豊かな奥武山公園や3万人が収容可能な野球場、各字での催しなどが人々の暮らしの中に溶け込んでいることに加えて、個人住宅やアパートなどの建築需要も旺盛であることなどから、小禄地区は住み心地の良い人気スポットとして今後も人口増加が期待されています。

(沖縄銀行 小禄支店長 富山 智)



✦ 2015年度の賃上げ

県内、着実に改善

ことしの春闘を振り返りますと、日本労働組合総連合会（連合）の6月1日臨時回答集計によると、賃上げ率2.23%、経団連の1次集計は大企業賃上げ率2.59%と発表されました。

政労使会議の中で、2014年度から安倍首相が企業へ賃上げを求め、今春は中小企業へも賃上げを促すなど、賃上げに対するこれまでの様相と趣が変わってきています。15年度の賃上げは大手企業の大幅な引き上げに続き、地方企業に影響が及んだことが特徴的でした。日経新聞調べ（複数回答）によると、賃上げ理由で最も多かったのは「人材・人手の確保の必要性」（49%）、次いで「自社の収益改善・拡大」（35%）、「物価上昇」（22%）など、必ずしも積極的な理由だけではないこともうかがえます。

県内に目を転ずると、15年度に賃上げする企業は95.7%（23社のうち22社）と、13年度73.0%（37社のうち27社）、14年度94.6%（37社のうち35社）に続いて賃金改善に向け着実な動きが見られます。賃上げ理由として全国同様、業績改善などが挙げられたほか、最近の人手不足を背景とした人材確保の観点から賃上げを検討・実施する企業も見受けられます。

このように、企業の収益改善による従業員への還元・設備投資などが広がることで、個人消費も活発化されることが予想され、結果として企業業績の更なる改善や賃上げによる労働環境の改善といった好循環につながっていくことを期待したいと思います。

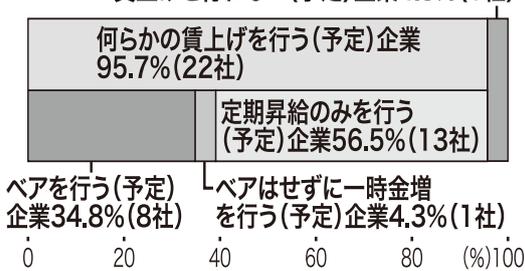
（沖縄銀行 南風原支店長 金城 優）

賃上げを行う企業の割合（2015年度）（規模・業種別）

回答数：23社（態度未定・無回答除く）

態度未定社：14社 無回答：1社

賃上げを行わない（予定）企業4.3%（1社）



（平成27年6月21日掲載）

✦ 東部海浜開発事業

沖縄市の活性化へ

沖縄市は人口が県内第2位で、市面積の36%を米軍基地が占め、エイサー、民謡、ジャズ、ロックなど、独特の芸能・文化・街並み・雰囲気を持つ国際色豊かな街です。

その中でも東部地区は、泡瀬を中心に11の自治会で構成されています。2015年3月末現在、同地区の人口は4万7,031人、世帯数が1万8,547世帯と、5年前と比べて、人口、世帯数ともに堅調に増加していることがうかがえます。

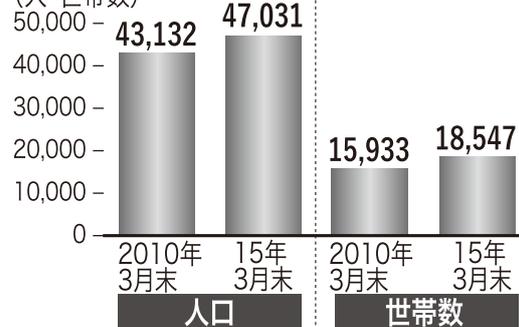
現在、同地区の泡瀬は沖縄市・県・国によって東部海浜開発事業が進められています。沖合いに埋め立ての人口島を造り、地域活性化の新たな拠点とする事業です。開発コンセプトは（1）沖縄市の最も優位な資源であるスポーツを最大限活用する（2）スポーツを中心とした商業や宿泊、海洋レジャーなどを展開する（3）県民・市民や観光客、スポーツ競技者を集客する（4）新たな就業の場、健康づくり、未病対策の場を創出する—の4点が挙げられています。海に囲まれた緑豊かな環境を整備するほか、既存市街地と相乗効果を発揮し、沖縄市全体の地域活性化につなげていくことが狙いです。

同地区の周辺地域は、広域道路などの交通アクセスに恵まれ、中城湾港新港地域への企業進出やさまざまな商業施設の進出なども見られます。東部海浜開発事業により、中部地区をけん引する魅力ある街として、さらに発展していくことが期待されます。

（沖縄銀行 泡瀬支店長 金城 正秀）

沖縄市東部地区の人口動態

（人・世帯数）



（平成27年6月28日掲載）

ゆがふ編集後記

地政学と沖縄、を考えてみた

地政学という学問があります。地理的な環境が、国家に与える政治的、軍事的、経済的な影響を、巨視的視点で研究する学問で、特にヨーロッパやアメリカの思想家や軍人を中心に研究が進み、イギリスやドイツ、アメリカ合衆国などでは、国家戦略に対する科学的な根拠や正当性を付与する学問としても発達したようです。

地政学的に見て日本は、その国土を海に囲まれているために、ヨーロッパや中国、アジアの諸国とだいぶ異なった歴史を歩んで来たと思います。古代において人々は、現代の我々が想像する以上にやすやすと海を渡り、縄文時代には既に大陸や南西諸島の島々と交易や行き来をしていたようです。弥生時代、その後の古墳時代になると、朝鮮半島を通じ中国王朝等の先進文化を取入れ、それを咀嚼して日本独自の文化を紡ぎ上げました。仏教は飛鳥時代にインドから中国、朝鮮半島を渡ってやってきましたが発祥地であるインドや中国、朝鮮半島に比べても日本で花開いている、と言ってもいいと思います。日本は大陸と海を隔てていた「地勢」のおかげで大陸諸国、あるいは半島諸国に比較して独自の文化を育める幸運な環境にあったのだと思います。現代日本も、海の輸送力(陸の輸送力とはケタ違い)をふんだんに活用してきた海洋国家として、経済発展(GDP世界第3位)を遂げています。

さて、地政学的に沖縄はどうだったか、といえ、歴史を振り返れば時代時代に相当な影響が与えられていたのだと思います。文字が発見されていないためグスク時代以前の琉球史はいまだ謎につつまれています。約5,000年前の埴畑式土器(熊本県宇土市遺跡標準)が読谷村や北谷町で発見されており、その頃に既に縄文人が海を渡って来たことが推測されます。その後グスク時代を経て舜天、英祖、察度の各王統、三山時代、第一、第二尚氏時代の中国歴代王朝との深い関係、大交易時代、薩摩藩や江戸幕府との関係など本土とは趣の違う歴史、先の沖縄戦、やはり、地政学的な影響を色濃く受けてきた場所だ、と改めて思います。

前置きがかなり長くなりました。当社の母体行である沖縄銀行が沖縄県を中心に据えた地図を最近お客様に配布していましたが、会社の応接室に貼ったその地図をじっと眺めていると、改めてアジア諸国への近さを感じてしまいます。もうびっくりです。1,000キロ圏内(飛行機だと1時間半くらい?)だと福岡、釜山、上海、福州、アモイ、台湾全土、1,500キロ(飛行機で2時間ちょっと?)で香港、マニラ、東京、さらに2,000キロ(飛行機で3時間くらい?)だと弘前、朝鮮半島全土、海南島、中国大陸主要都市ほぼ全部、と、やはり「地政学」的に優位な場所に沖縄はあります。沖縄21世紀ビジョンの示す、アジアへのゲートウェイ、アジアの活力を、沖縄経済に取り込んでいくのだ、国際物流拠点を目指すのだ、という方針は、これは正しいのだ、と改めて思っています。以前、香港進出を考えていた(実際進出した)食品関係の経営者と香港に出張した際、彼が最初に発した言葉をよく覚えています。いわく、「香港って、こんなに近かったのか」。

(株)おきぎん経済研究所 代表取締役社長 出村郁雄